

平成28年度

児童・生徒の学力向上を図るための調査

報告書

平成29年3月

青梅市教育委員会

はじめに

青梅市教育委員会 教育長 岡田 芳典

平成28年12月、中央教育審議会が「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の答申を出しました。次期学習指導要領の改訂を見据えて、教師は子供たちに、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けさせ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう教育を推進していく必要があります。

本報告書では、平成28年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」における各問題の結果、分析と、平成28年度「全国学力・学習状況調査」の概要および結果を掲載しております。

学力調査の目的は、児童・生徒の学習状況を把握することだけでなく、学校全体として指導方法の検証・改善につなげることにあります。調査問題は学習指導要領にもとづき、児童・生徒が身に付け、活用できるようにしておくべき学習内容が、バランスよく出題されています。各学校では、子供たちのつまづきが多かった箇所について繰り返し指導するとともに、学習内容の基礎・基本の定着に向けて、指導方法を工夫・改善していただきますようお願いいたします。

この児童・生徒の学力向上を図るための調査の実施に当たっては、平成24年度から自校採点方式となっております。自校で採点することにより、迅速に児童・生徒へ結果を返却することができ、大変効果的な取組となっております。ご協力いただきました先生方に、深く感謝いたします。

また、東京女子体育大学常任理事の田中洋一教授におかれましては、大変御多用の中、今年度も青梅市学力向上アドバイザーとして御指導いただき、心より感謝申し上げます。巻末に、田中教授から御指導いただいた学力向上推進委員会の取組を紹介しておりますので、各学校の授業改善の資料としてご活用ください。

結びに、青梅市教育委員会の学力向上施策に、御尽力いただきましたすべての皆様に、改めて感謝を申し上げますとともに、本報告書が青梅の子供たちの学力向上に寄与することを期待しております。

青梅市の学力向上に向けての取組について

青梅市学力向上アドバイザー

東京女子体育大学 教授 田中 洋一

今年度も青梅市学力向上推進委員会のお手伝いをさせていただきました。各校の委員の先生方には、児童生徒の学力向上のために創意を結集して授業改善に取り組んでいただきました。その結果として、多大な成果が挙げられたと考えています。

青梅市が目指している、児童生徒が主体的に取り組み深く思考する授業は、これからの日本の教育に最も求められているものであるといえます。教育の世界で最も大きな出来事である新学習指導要領の告示が先日ありました。新しい学習指導要領は、21世紀に生きる子供たちに必要な学力を育成することを目指しています。この学力は、今まで青梅市が目指してきたものと合致しています。その点を少し説明させていただきます。

新学習指導要領で求めている学力は、平成10年告示の学習指導要領から継続している「生きる力の育成」であり、それが、いわゆる21世紀型学力に裏付けられた力ということになります。平成10年というのは21世紀を目前にした時期でしたから、来る新しい世紀に向かって、これからの日本の教育のあるべき姿を明らかにしたものでした。ここでいう21世紀型学力とは、「科学技術の発展等による社会の変化への対応」と「長寿社会の充実」という二つ要素から捉えることができます。

まず社会の変化への対応ですが、これについては次のようなことが参考になります。オックスフォード大学のマイケル・オズボーン准教授は今後10年～20年程度で、約47%の仕事が自動化される可能性が高いと予告しています。また、ニューヨーク市立大学大学院センター教授のキャシー・デビットソン教授は、現在の子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろうとしています。このように今後の社会は、私たちの予想を超えるスピードで変化していきます。これに対応していく人材を育成する必要があるのです。

もう一つの長寿社会の充実ですが、人間が長寿になると、学校を卒業してからの生活年数が長くなります。そうすると、学校で得た知識を切り売りするだけでは不十分で、目の前にある課題に正対し、自分の力で解決していくことが求められます。また、ある程度できることでも、さらに深い知識や高度な技術を求める意識や能力が必要になります。

これらの学力を向上させるためには、授業の中で知識・技能と思考・判断の力をバランスよく育てることが大切です。また、知識・技能については汎用的な知識と応用可能な技術であること、思考・判断の力は自ら創意工夫する主体性に裏付けられた能力であることが大切です。

青梅市の学力向上推進委員会が試みてきた授業改善はこれらの考えと一致しているのです。青梅市の方針は学習指導要領を先取りしたものであるといえます。今後もこの方向で継続した研究を行っていただきたいと思います。今までの研究成果を基に、一層充実した授業を提案し、青梅市の子供たちの学力向上に努めていただくことを期待いたします。

平成28年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 報告書 目 次

◇はじめに

◇青梅市の学力向上に向けての取組について

青梅市学力向上アドバイザー 東京女子体育大学 教授 田中 洋一

◇目 次

| | | |
|---------|-----------|---------|
| ◇調査の概要 | ----- | 1 |
| 1 調査目的 | 2 調査対象 | 3 調査内容 |
| 4 調査方法等 | 5 調査結果の公表 | 6 調査実施日 |

第1章 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)

| | | |
|-------------------------------------|-------|----|
| I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の概要 | ----- | 5 |
| 1 調査実施の趣旨 | | |
| 2 調査問題作成の基本方針 | | |
| 3 調査項目 | | |
| II 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の結果について | | |
| 1 調査結果 | ----- | 6 |
| 2 各教科の問題ごとの正答率一覧と正答数分布 | | |
| (1) 国語 (2) 社会 (3) 算数 (4) 理科 | ----- | 7 |
| (5) 青梅市の合計正答数の人数分布(小学校第5学年) | ----- | 11 |

第2章 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)

| | | |
|---|-------|----|
| I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の概要 | ----- | 15 |
| 1 調査実施の趣旨 | | |
| 2 調査問題作成の基本方針 | | |
| 3 調査項目 | | |
| II 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の結果について | | |
| 1 調査結果 | ----- | 16 |
| 2 各教科の問題ごとの正答率一覧と正答数分布 | | |
| (1) 国語 (2) 社会 (3) 数学 (4) 理科 (5) 外国語(英語) | ----- | 17 |
| (6) 青梅市の合計正答数の人数分布(中学校第2学年) | ----- | 22 |

第3章 学習に関する意識調査

| | | |
|-------------------------|-------|----|
| I 小学校における学習に関する意識調査について | ----- | 25 |
| 1 調査の概要 | | |

| | | |
|----|-----------------------|-----|
| 2 | 調査結果 | |
| II | 中学校における学習に関する意識調査について | 4 1 |
| 1 | 調査の概要 | |
| 2 | 調査結果 | |

第4章 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について

| | | |
|-----|-----------------------------|-----|
| I | 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について | 6 1 |
| II | 青梅市学力向上5ヵ年計画 | 6 2 |
| III | 学力向上推進委員会の取組 | 6 3 |
| 1 | 学力向上推進委員会 | |
| 2 | 推進委員会取組経過 | |
| 3 | 学力向上推進委員の構成について | |
| 4 | 研究授業について | |
| IV | 学カステップアップ推進地域指定事業の取組 | 7 0 |
| | 参考資料 | |
| ◇ | 平成28年度全国学力・学習状況調査の概要について | 7 5 |
| | 教科別正答数分布（小学校）、教科別正答数分布（中学校） | |

調査の概要

1 調査目的

- (1) 都教育委員会は、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況および、読み解く力に関する定着状況を把握し、全都における教育行政施策に生かす。
- (2) 区市町村教育委員会は、教育課程や指導方法等に関わる自地区の課題を明確にし、その充実・改善を図るとともに、自地区の教育行政施策に生かす。
- (3) 各学校は、教育課程や指導方法等に関わる自校の課題・解決策を明確にし、児童・生徒一人一人の学力向上を図る。
- (4) 都教育委員会は、都民に対し、東京都の公立小・中学校における児童・生徒の学力の状況について、広く理解を求める。

2 調査対象 ※ () 内は東京都全体

| 調査対象学年 | 調査を実施した学校数 | 調査を受けた児童・生徒数 |
|----------------|------------|---------------|
| 市内（都内公立）小学校5学年 | 17（1,289）校 | 1026（87,598）名 |
| 市内（都内公立）中学校2学年 | 11（626）校 | 1084（73,281）名 |

3 調査内容

- (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査
 - ・小学校 第5学年…国語、社会、算数、理科
 - ・中学校 第2学年…国語、社会、数学、理科、外国語（英語）
- (2) 学習に関する意識調査＜調査対象の全児童・生徒＞ ※本報告書に結果掲載
- (3) 学校に関する質問紙調査＜調査対象の全学校＞ ※青梅市のみ集計なし

4 調査方法等

- (1) 児童・生徒の学力向上を図るための調査は、国語、社会、算数・数学、理科、外国語（英語）の学習指導要領に示されている目標や内容にもとづいた事項および読み解く力に関する事項について、ペーパーテスト形式により調査する。
- (2) 学習に関する意識調査は、児童・生徒の学習や生活に関する意識や生活状況などについて質問紙形式で調査する。
- (3) 学校に関する質問紙調査は、学校における指導方法に対する取組や児童・生徒の学習環境、生活習慣などについて質問紙形式で調査する。

5 調査結果の公表

- (1) 報告書による結果の公表
 - ・各教科の観点ごと、読み解く力ごとの正答率（青梅市および東京都全体）
 - ・各教科の問題ごとの正答率（青梅市および東京都全体）
 - ・各教科の正答数分布（青梅市および東京都全体の調査結果）
 - ・児童・生徒質問紙調査集計結果（青梅市、都抽出校）※学校質問紙集計結果は、東京都の報告書参照
- (2) 各教科の問題ごとの結果分析について
 - ・青梅市全体および抽出校の調査結果にもとづき、分析した。※抽出校とは無作為抽出により選定した都全体の調査実施校の約10%にあたる学校である。

6 調査実施日

平成28年7月7日（木）

第1章

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」
(小学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の概要

1 調査実施の趣旨

東京都教育委員会では、平成16年度から、国語、社会、算数、理科の教科の目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の充実・改善に結び付けることを目的に、教科別・観点別の学力定着状況調査を3年間実施した。平成18年度から平成20年度にかけては、「問題解決能力等」の調査を実施し、平成19年度から平成22年度にかけては、「基礎的・基本的な事項に関する調査」を実施した。

これまでの調査の結果から、東京都における児童の学力の定着状況については、概ね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握することや情報を整理して判断すること」については、課題があることが明らかになった。この課題を踏まえ、平成22年度には、「文章や図表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する」過程において、児童がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを明らかにするために、「読み解く力に関する調査」を実施した。平成23年度からは、小学校学習指導要領が全面実施されたことを踏まえ、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況と「読み解く力」の定着状況を把握するために、国語、社会、算数、理科の各教科について調査を実施している。

2 調査問題作成の基本方針

- (1) 調査問題を、年度ごとに比較する「経年比較型」、児童のつまずきが、どこでどのように見られたのか分析できる「課題分析型」、よりよい授業展開の在り方を提案する「授業提案型」の3種類とする。
- (2) 学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの評価の観点(国語は5観点)から調査する。
- (3) 「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3つの観点から調査する。

3 調査項目

| 教科 | 調査項目 |
|----|---|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くこと(「聞くこと」については、音声を聞いて答える問題) ・漢字の読み(「学年別漢字配当表」第4学年までのもの) ・漢字の書き(「学年別漢字配当表」第3学年までのもの) ・言葉に関する知識 ・文学的な文章の読み ・説明的な文章の読み ・書くこと 【読み解く力】 (1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域や区市町村の様子 ・地域の販売に携わっている人々の働き ・地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための活動 ・地域の人々の安全を守る活動 ・都道府県の位置 ・東京都の様子 ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事 【読み解く力】 (1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ・整数、小数、分数の計算(小数×小数を含む) ・数の相対的な大きさ ・面積 ・四角形の特徴 ・直方体、立方体 ・□などを用いた式 【読み解く力】 (1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 理科 | [小学校第5学年6月までに学習する次の内容] <ul style="list-style-type: none"> ・磁石の性質 ・電気の通り道 ・昆虫と植物 ・太陽と地面の様子 ・電気の働き ・金属、水、空気と温度 ・天気の様子 ・月と星 ・植物の発芽 【読み解く力】 (1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |

※持ち物として、定規を用意する。

※各教科とも小学校第4学年までに学習した内容を含む。

Ⅱ 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校)の結果について

1 調査結果の概要

| 教科 | 《教科の観点ごとの正答率》 | | | | | 《教科の読み解く力ごとの正答率》 | | | | | | |
|---------|-----------------|--------|-------------|----|------|------------------|--------------------------|--------|-------------|------|-----|-------|
| | 内容 | 都全体 | 平均正答率グラフ(%) | | | 差 | 評価の観点 | 都全体 | 平均正答率グラフ(%) | | | 差 |
| | | 青梅市 | 0 | 50 | 100 | | | 青梅市 | 0 | 50 | 100 | |
| 国語 | 国語への関心・意欲・態度 | 87.8 % | | | | -2.4 | 必要な情報を正確に取り出す力 | 56.0 % | | | | -10.0 |
| | | 85.4 % | | | | | | 46.0 % | | | | |
| | 話す・聞く能力 | 74.6 % | | | | -17.9 | 比較・関連付けて読み取る力 | 7.3 % | | | | -3.8 |
| | | 56.7 % | | | | | | 3.5 % | | | | |
| | 書く能力 | 61.2 % | | | | -6.2 | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 37.7 % | | | | -10.4 |
| | | 55.0 % | | | | | | 27.3 % | | | | |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 61.3 % | | | | -9.5 | B 読み解く力に関する内容 | 33.6 % | | | | -8.0 |
| | | 51.8 % | | | | | | 25.6 % | | | | |
| | 読む能力 | 63.6 % | | | | -9.7 | 教科の合計(A+B) | | | | | |
| | | 53.9 % | | | | | | 62.7 % | | | | -8.0 |
| A 教科の内容 | 67.2 % | | | | -7.9 | | | | | | | |
| | 59.3 % | | | | | 54.7 % | | | | | | |
| 社会 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 88.3 % | | | | -2.1 | 必要な情報を正確に取り出す力 | 57.0 % | | | | -7.2 |
| | | 86.2 % | | | | | | 49.8 % | | | | |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 60.8 % | | | | -8.8 | 比較・関連付けて読み取る力 | 48.7 % | | | | -7.4 |
| | | 52.0 % | | | | | | 41.3 % | | | | |
| | 観察・資料活用 の技能 | 68.1 % | | | | -7.2 | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 32.8 % | | | | -3.7 |
| | | 60.9 % | | | | | | 29.1 % | | | | |
| | 社会的事象についての知識・理解 | 44.7 % | | | | -7.4 | B 読み解く力に関する内容 | 46.1 % | | | | -6.0 |
| | | 37.3 % | | | | | | 40.1 % | | | | |
| A 教科の内容 | 60.5 % | | | | -7.1 | | | | | | | |
| | 53.4 % | | | | | 56.8 % | | | | -6.8 | | |
| | | | | | | 50.0 % | | | | | | |
| 算数 | 算数への関心・意欲・態度 | 78.4 % | | | | 2.9 | 必要な情報を正確に取り出す力 | 74.6 % | | | | -10.2 |
| | | 81.3 % | | | | | | 64.4 % | | | | |
| | 数学的な考え方 | 59.2 % | | | | -6.4 | 比較・関連付けて読み取る力 | 25.8 % | | | | -11.0 |
| | | 52.8 % | | | | | | 14.8 % | | | | |
| | 数量や図形についての技能 | 68.2 % | | | | -5.9 | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 38.8 % | | | | -7.5 |
| | | 62.3 % | | | | | | 31.3 % | | | | |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 69.5 % | | | | -7.1 | B 読み解く力に関する内容 | 46.4 % | | | | -9.6 |
| | | 62.4 % | | | | | | 36.8 % | | | | |
| A 教科の内容 | 67.6 % | | | | -6.0 | | | | | | | |
| | 61.6 % | | | | | 63.3 % | | | | -6.3 | | |
| | | | | | | 57.0 % | | | | | | |
| 理科 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 91.3 % | | | | -0.2 | 必要な情報を正確に取り出す力 | 60.5 % | | | | -3.0 |
| | | 91.1 % | | | | | | 57.5 % | | | | |
| | 科学的な思考・表現 | 59.4 % | | | | -6.2 | 比較・関連付けて読み取る力 | 55.5 % | | | | -8.2 |
| | | 53.2 % | | | | | | 47.3 % | | | | |
| | 観察・実験の技能 | 71.4 % | | | | -7.1 | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 56.2 % | | | | -4.8 |
| | | 64.3 % | | | | | | 51.4 % | | | | |
| | 自然事象についての知識・理解 | 73.7 % | | | | -3.8 | B 読み解く力に関する内容 | 57.4 % | | | | -5.3 |
| | | 69.9 % | | | | | | 52.1 % | | | | |
| A 教科の内容 | 70.5 % | | | | -5.2 | | | | | | | |
| | 65.3 % | | | | | 67.4 % | | | | -5.1 | | |
| | | | | | | 62.3 % | | | | | | |

2 各教科の問題ごとの正答率一覧

(1) 国語（小学校第5学年対象）

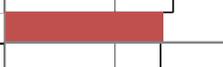
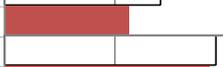
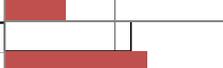
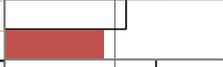
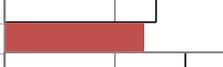
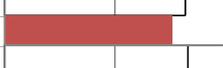
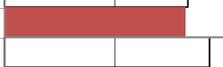
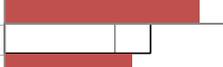
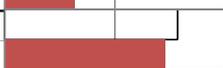
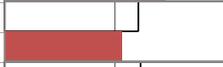
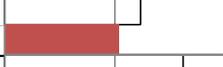
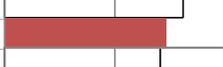
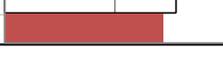
| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|------|------|------------------|---|-------------|--|-------|---|------------------|-----------------------|------------|------------------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | | |
| 1(1) | 1 | 3・4年 A話聞工 | インタビューの内容を的確に捉えることができる。 | | ○ | | | | 91.9 % 89.3 % | 東京都 青梅市 | -2.6 | ● |
| 1(2) | 2 | 3・4年 A話聞工 | インタビューをするときの話し方や聞き方の工夫を捉えることができる。 | | ○ | | | | 58.1 % 54.5 % | | -3.6 | ● |
| 1(3) | 3 | 3・4年 A話聞才 | インタビューの目的に目的に応じて適切に質問することができる。 | | ○ | | | | 96.9 % 95.9 % | | -1.0 | ● |
| 1(4) | 4 | 3・4年 A話聞 | インタビューをするときに気を付けることが身に付いている。 | ○ | | | | | 95.7 % 93.2 % | | -2.5 | ● |
| 2(1) | 5 | 3・4年 伝(1)ウ(イ) | 第4学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことができる。 | | | | | ○ | 70.8 % 56.3 % | | -14.5 | ○ |
| 2(2) | 6 | | | | | | | ○ | 96.0 % 92.9 % | | -3.1 | ○ |
| 3(1) | 7 | | 第3学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書くことができる。 | | | | | ○ | 61.8 % 39.0 % | | -22.8 | ○ |
| 3(2) | 8 | | | | | | ○ | 79.1 % 66.2 % | | -12.9 | ○ | |
| 4(1) | 9 | | | 3・4年 C読イ | 【資料A】の文章から、トマトの实の色についての情報を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | | 82.4 % 75.7 % | |
| 4(2) | 10 | 3・4年 C読イ | 【資料A】と【資料B】の二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | | 73.9 % 68.3 % | | -5.6 | |
| 4(3) | 11 | 3・4年 C読工 | 【資料A】と【資料B】の筆者の考えを理解・解釈して、さとるくんが目的に応じてまとめた文章を考えることができる。 | 解決する力 | | | | | 35.3 % 27.1 % | | -8.2 | |
| 5(1) | 12 | 3・4年 C読ウ | 叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。 | | | | | ○ | 66.2 % 55.0 % | | -11.2 | ● |
| 5(2) | 13 | | 叙述の工夫を読み取ることができる。 | | | | | ○ | 74.3 % 68.6 % | | -5.7 | ● |
| 5(3) | 14 | | 「風香」の行動の意図を話の展開や言動から読み取ることができる。 | | | | | ○ | 78.1 % 69.3 % | | -8.8 | ● |
| 6(1) | 15 | 3・4年 B書ウ | 相手や目的に応じて書きたいことが伝わるように書くことができる。 | | | | ○ | | 77.9 % 70.3 % | | -7.6 | ● |
| 6(2) | 16 | 3・5年 B書才 | 書きたいことが正しく伝わるように書いているかを確かめることができる。 | | | | ○ | | 16.8 % 16.9 % | | 0.1 | ○ |
| 6(3) | 17 | 3・4年 B書 | 観察の記録を見直すときに気を付けることが身に付いている。 | ○ | | | | | 83.4 % 79.8 % | | -3.6 | ● |
| 7(1) | 18 | 3・4年 伝(1)イ(ク) | 文と文をつなぐために適切な接続語をつかうことができる。 | | | | | ○ | 92.4 % 89.1 % | | -3.3 | ○ |
| 7(2) | 19 | | 段落と段落をつなぐために適切な接続語を使うことができる。 | | | | | ○ | 80.0 % 71.1 % | | -8.9 | ○ |
| 7(3) | 20 | | 指示後が指し示すものを的確に捉えることができる。 | | | | | ○ | 65.7 % 54.3 % | | -11.4 | ● |

評価の観点 ①国語への関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力
⑤言語についての知識・理解・技能

(分類) ○ 教科書例題レベルの問題
● 教科書練習問題レベルの問題

到達目標値は、○と●の合計数

(2) 社会 (小学校第5学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|------|------|---------------|--|-------|---|---|---|-----------------------|---|-------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 3・4年 (1)ア | 地図を基に、身近な地域の様子を、方位から読み取ることができる。 | | | ○ | | 67.7 % 62.9 % |  | -4.8 | ○ |
| 1(2) | 2 | | 地図記号について理解している。 | | | | ○ | 91.6 % 89.6 % |  | -2.0 | ○ |
| 1(3) | 3 | | 地図の様子や地域の土地の使い方について捉えることができる。 | | ○ | | | 76.5 % 71.8 % |  | -4.7 | ● |
| 2(1) | 4 | 3・4年 (4)アイ | 火災発生件数の変化から調べてみたい課題を見つけ、調べようとしている。 | ○ | | | | 70.8 % 56.3 % |  | -14.5 | ● |
| 2(2) | 5 | | 119番通報は、関係機関が連携して対処する体制となっていることを読み取ることができる。 | | | ○ | | 96.0 % 92.9 % |  | -3.1 | ● |
| 2(3) | 6 | | 人々を火災から守るための消防士の働きを捉えることができる。 | | ○ | | | 33.9 % 27.8 % |  | -6.1 | ● |
| 3(1) | 7 | 3・4年 (6)アイ | 自分たちが通う小学校がある区市町村の名称と位置を理解している。 | | | | ○ | 57.3 % 64.6 % |  | 7.3 | ○ |
| 3(2) | 8 | | 東京都の土地の高低について理解している。 | | | | ○ | 87.4 % 86.2 % |  | -1.2 | ○ |
| 3(3) | 9 | | 東京都の地形、特色ある地域、主な都市を理解している。 | | | | ○ | 76.7 % 71.5 % |  | -5.2 | ○ |
| 3(4) | 10 | | 都道府県の位置と名称を理解している。 | | | | ○ | 55.2 % 44.8 % |  | -10.4 | ○ |
| 4(1) | 11 | 3・4年 (6)ウエ | 複数の資料から、B市の様子(土地利用や農業)を読み取ることができる。 | | | ○ | | 68.7 % 63.4 % |  | -5.3 | ● |
| 4(2) | 12 | | 調べ学習に必要な資料が何かを読み取ることができる。 | | | ○ | | 82.1 % 75.8 % |  | -6.3 | ● |
| 4(3) | 13 | | 資料から、県内の特色ある地域の様子を捉えることができる。 | | ○ | | | 83.3 % 81.8 % |  | -1.5 | ● |
| 4(4) | 14 | | 学習を振り返り、分かったことを生かしてさらに調べようとしている。 | ○ | | | | 93.0 % 91.8 % |  | -1.2 | ● |
| 5(1) | 15 | 3・4年 (5)ア | 昔の道具カードから、昔の道具(かまどと羽釜)の使い方を読み取ることができる。 | | | ○ | | 91.5 % 88.3 % |  | -3.2 | ○ |
| 5(2) | 16 | | 昔の知恵や工夫が、現在の暮らしにも生かされていることを捉えることができる。 | | ○ | | | 66.3 % 57.9 % |  | -8.4 | ○ |
| 5(3) | 17 | | 道具のうつりかわりと、それに伴った暮らしの変化の様子の特色を捉えることができる。 | | ○ | | | 30.6 % 31.9 % |  | 1.3 | ○ |
| 6(1) | 18 | 3・4年 (2)アイ | 小学生の人数とえんぴつの生産量の変化についての情報を、正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | 78.5 % 73.0 % |  | -5.5 | ● |
| 6(2) | 19 | | 資料から取り出した情報を比較・関連付け、新商品を開発した背景や売り上げ数の変化を読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | 60.8 % 53.3 % |  | -7.5 | |
| 6(3) | 20 | | 資料から大人向けえんぴつの開発の背景について考え、社長の考えについて推論することができる。 | 解決する力 | | | | 61.8 % 52.1 % |  | -9.7 | |
| 7(1) | 21 | 3・4年 (3)アイ | D地区のごみの分け方・出し方についての情報を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | 81.1 % 73.2 % |  | -7.9 | ● |
| 7(2) | 22 | | a 町とb 町の資源とごみの収集についての情報を比較・関連付け、D地区の資源とごみの出し方の特徴を読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | 70.6 % 65.1 % |  | -5.5 | |
| 7(3) | 23 | | 資料から資源とごみの分け方・出し方及び自分たちができる協力について結論付けることができる。 | 解決する力 | | | | 77.8 % 72.1 % |  | -5.7 | |

評価の観点 ①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③観察・資料活用の技能
④社会的事象についての知識・理解

(分類) ○ 教科書例題レベルの問題 ● 教科書練習問題レベルの問題

※到達目標値は、○と●の合計数

(3) 算数 (小学校第5学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要 学 領 の 内 容 指 導 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|-------|------|--------------------------------------|--|-------|---|-------|------------------|-----------------------|-----------|---|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 4年D(2)ア | 四則の混合した計算ができる。 | | | ○ | 64.1 % 64.3 % | | 0.2 | ○ | |
| 1(2) | 2 | 4年A(5)イ | 小数+小数の計算ができる。 | | | ○ | 63.6 % 59.6 % | | -4.0 | ○ | |
| 1(3) | 3 | 4年A(5)ウ | 小数÷整数の計算ができる。 | | | ○ | 67.1 % 61.7 % | | -5.4 | ○ | |
| 1(4) | 4 | 4年A(6)イ | 帯分数-帯分数(同分母分数)の計算ができる。 | | | ○ | 62.3 % 52.0 % | | -10.3 | ○ | |
| 1(5) | 5 | 5年A(3)ア | 小数×小数の計算ができる。 | | | ○ | 60.5 % 56.0 % | | -4.5 | ○ | |
| 2(1) | 6 | 4年A(1)ア | 数の相対的な見方(単位ごとの数の和)ができる。 | | | ○ | 68.6 % 60.7 % | | -7.9 | ○ | |
| 2(2) | 7 | 4年A(2)ウ | 数の相対的な見方(100を単位)ができる。 | | | ○ | 66.7 % 64.8 % | | -1.9 | ○ | |
| 3A | 8 | 4年A(2)ウ | がい数を使った見積りの仕方を理解している(切り上げ)。 | | | ○ | 63.0 % 55.5 % | | -7.5 | ● | |
| 3B | 9 | | がい数を使った見積りの仕方を理解している(四捨五入)。 | | | ○ | 63.2 % 57.9 % | | -5.3 | ● | |
| 3C | 10 | | がい数を使った見積りの仕方を理解している(切り捨て)。 | | | ○ | 68.2 % 63.4 % | | -4.8 | ● | |
| 4(1) | 11 | 4年A(5)ウ | 赤・青・黄の3色のテープの長さの関係から、それぞれの割合、比較量、基準量について計算して求めることができる。 | | | ○ | 72.3 % 64.0 % | | -8.3 | ● | |
| 4(2) | 12 | | | | | ○ | 62.7 % 47.9 % | | -14.8 | ● | |
| 5(1) | 13 | 4年B(1) | 複合図形の面積の求め方を捉え、式から図に表すことができる。 | | | ○ | 56.0 % 52.1 % | | -3.9 | ● | |
| 5(2) | 14 | | 複合図形の面積の求めることができる。 | | | ○ | 78.7 % 47.7 % | | -31.0 | | |
| 6(1)① | 15 | 4年C(1)イ | 四角形の特徴を理解している。 | | | ○ | 68.1 % 63.3 % | | -4.8 | ● | |
| 6(1)② | 16 | | | | | ○ | 69.7 % 63.6 % | | -6.1 | ● | |
| 6(2) | 17 | | 対角線の特徴から四角形を弁別できる。 | | | ○ | 45.5 % 40.2 % | | -5.3 | | |
| 6(3) | 18 | 4年C(1)イ | 四角形について学習したことを後の学習に活用しようとしている。 | ○ | | | 85.0 % 80.3 % | | -4.7 | ● | |
| 7(1)① | 19 | 4年C(2)イ | 直方体の面と面との関係を理解している。 | | | ○ | 92.0 % 88.3 % | | -3.7 | ○ | |
| 7(1)② | 20 | | 直方体の面と辺との関係を理解している。 | | | ○ | 83.5 % 78.8 % | | -4.7 | ○ | |
| 7(1)③ | 21 | | 直方体の辺と辺との関係を理解している。 | | | ○ | 73.0 % 64.9 % | | -8.1 | ● | |
| 7(2) | 22 | 4年C(2)イ | 直方体を切り開いたときの展開図を捉えることができる。 | | | ○ | 51.7 % 48.2 % | | -3.5 | | |
| 8(1) | 23 | 3年D(2)イ | 問題の場面を□を使った式で表わすことができる。 | | | ○ | 65.4 % 51.9 % | | -13.5 | ● | |
| 8(2) | 24 | | □に当てはまる数を求めることができる。 | | | ○ | 68.2 % 57.0 % | | -11.2 | ● | |
| 8(3) | 25 | 3年D(2) | □などを用いた式について学習したことを後の学習に活用しようとしている | ○ | | | 77.8 % 76.9 % | | -0.9 | ● | |
| 9(1) | 26 | 4年D(2)ウ | 問題の場面から情報を正しく取り出すことができる。 | | | 取り出す力 | 81.9 % 70.0 % | | -11.9 | ○ | |
| 9(2) | 27 | | 走った時間と歩いた時間、かかった時間について関連付けながら表にまとめ、それらの関係について読み取ることができる。 | | | 読み取る力 | 13.9 % 7.4 % | | -6.5 | ● | |
| 9(3) | 28 | | 走った時間と歩いた時間、かかった時間の関係について読み取ったことをもとに、問題を解決ができる。 | | | 解決する力 | 19.3 % 12.1 % | | -7.2 | | |
| 10(1) | 29 | 4年D(2)ウ | 3人のシールの枚数の関係について、2つの分から正確に情報を取り出すことができる。 | | | 取り出す力 | 57.5 % 47.3 % | | -10.2 | ○ | |
| 10(2) | 30 | | 3人のシールの枚数の関係を、□を使った式でまとめることができる。 | | | 読み取る力 | 38.7 % 24.5 % | | -14.2 | ● | |
| 10(3) | 31 | | 3人のシールの枚数の関係について読み取ったことから、3人のシールの枚数を求められる。 | | | 解決する力 | 47.3 % 35.6 % | | -11.7 | | |

評価の観点 ①算数への関心・意欲・態度 ②数学的な考え方 ③数量や図形についての技能 ④数量や図形についての知識・理解

(分類) ○ 教科書例題レベルの問題 ● 教科書練習問題レベルの問題

※到達目標値は、○と●の合計数

(4) 理科 (小学校第5学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) 0 50 100 | 差 | 分類 |
|------|------|---------------------|---|-------|---|---|---|-----------------------|-----------------------|-------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 3年B(1)ア | 昆虫の体のつくりの特徴について理解している。 | | | | ○ | 57.3 % 44.0 % | 東京都 青梅市 | -13.3 | ● |
| 1(2) | 2 | | 昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解している。 | | | | ○ | 49.5 % 43.3 % | | -6.2 | ● |
| 1(3) | 3 | | 昆虫の体のつくりや育ち方に興味・関心を持ち、愛情をもって世話をしようとしている。 | ○ | | | | 95.8 % 92.2 % | | -3.6 | |
| 2(1) | 4 | 4年A(2)イ | 金属は、熱した部分から順に温まっていくことを理解している。 | | | | ○ | 80.9 % 76.9 % | | -4.0 | ○ |
| 2(2) | 5 | | 温められた空気の性質と生活への活用場面とを関連付けて考えることができる。 | | ○ | | | 87.9 % 84.6 % | | -3.3 | ● |
| 3(1) | 6 | 3年A(4)アイ | 磁石に引きつけられる物は鉄であることを理解している。 | | | | ○ | 56.0 % 52.4 % | | -3.6 | ○ |
| 3(2) | 7 | | 磁石の極の性質を理解し、ものづくりに活用することができる。 | | ○ | | | 83.9 % 78.3 % | | -5.6 | ● |
| 3(3) | 8 | | 磁石の性質に興味・関心を持ち、さらに調べたり、活用したりしようとしている。 | ○ | | | | 91.2 % 86.5 % | | -4.7 | |
| 4(1) | 9 | 3年A(5)アイ 4年A(3)ア | 電気を通す物は金属であることを理解している。 | | | | ○ | 35.9 % 33.7 % | | -2.2 | ○ |
| 4(2) | 10 | | 簡易検流計を使って、回路を流れる電流の強さを適切に調べることができる。 | | | ○ | | 68.7 % 62.3 % | | -6.4 | ● |
| 4(3) | 11 | | 回路を流れる電流の強さとその働きとを関係付けて考えることができる。 | | ○ | | | 58.9 % 50.5 % | | -8.4 | ● |
| 4(4) | 12 | | 2つの乾電池のつなぎ方を変えたときの回路の名称を理解している。 | | | | ○ | 45.0 % 33.9 % | | -11.1 | ● |
| 5(1) | 13 | 3年B(3)ア | 太陽は東の方から、南の空を通過して、西の方に動くことを理解している。 | | | | ○ | 51.3 % 41.2 % | | -10.1 | ○ |
| 5(2) | 14 | | 太陽の動き方とかげの動き方を関係付けて考えることができる。 | | ○ | | | 59.8 % 53.2 % | | -6.6 | |
| 6(1) | 15 | 4年B(3)ア | 気温の変化を温度計等を使用して適切に測ることができる。 | | | ○ | | 40.5 % 26.7 % | | -13.8 | ○ |
| 6(2) | 16 | | 温度計を使って記録した気温を、正しく読み取ることができる。 | | | ○ | | 43.6 % 32.4 % | | -11.2 | ● |
| 6(3) | 17 | | 気温の変化と天気の様子とを関係付けて考えることができる。 | | ○ | | | 79.5 % 75.0 % | | -4.5 | |
| 7(1) | 18 | 4年B(4)ウ | 星座早見表の適切な使い方を理解している。 | | | ○ | | 41.6 % 34.0 % | | -7.6 | ○ |
| 7(2) | 19 | | 時刻によって、星座の位置は変わるが、星の並び方は変わらないことを理解している。 | | | | ○ | 83.7 % 73.8 % | | -9.9 | ● |
| 8(1) | 20 | 4年A(2)ア | 金属を熱したときに観察された長さや温度との関係を資料から読み取ることができる。 | 取り出す力 | | | | 72.4 % 68.0 % | | -4.4 | ● |
| 8(2) | 21 | | 金属の種類と金属を熱したときの長さの変化とを比較・関連付けて考えることができる。 | 読み取る力 | | | | 74.9 % 71.3 % | | -3.6 | ● |
| 8(3) | 22 | | 金属の種類による熱したときの長さの変化の違いを理解し、適切な条件を考えることができる。 | 解決する力 | | | | 40.7 % 38.4 % | | -2.3 | |
| 9(1) | 23 | 5年B(1)イ | 予想が正しかった場合に得られる実験の結果について、資料から読み取ることができる。 | 取り出す力 | | | | 59.8 % 41.7 % | | -18.1 | ● |
| 9(2) | 24 | | 実験の結果と予想とを比較・関連付けて考えることができる。 | 読み取る力 | | | | 46.5 % 40.0 % | | -6.5 | ● |
| 9(3) | 25 | | 種子が発芽する条件を理解し、適切な条件を考えることができる。 | 解決する力 | | | | 61.2 % 56.7 % | | -4.5 | |

評価の観点 ①自然事象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現 ③観察・実験の技能
④自然事象についての知識・理解

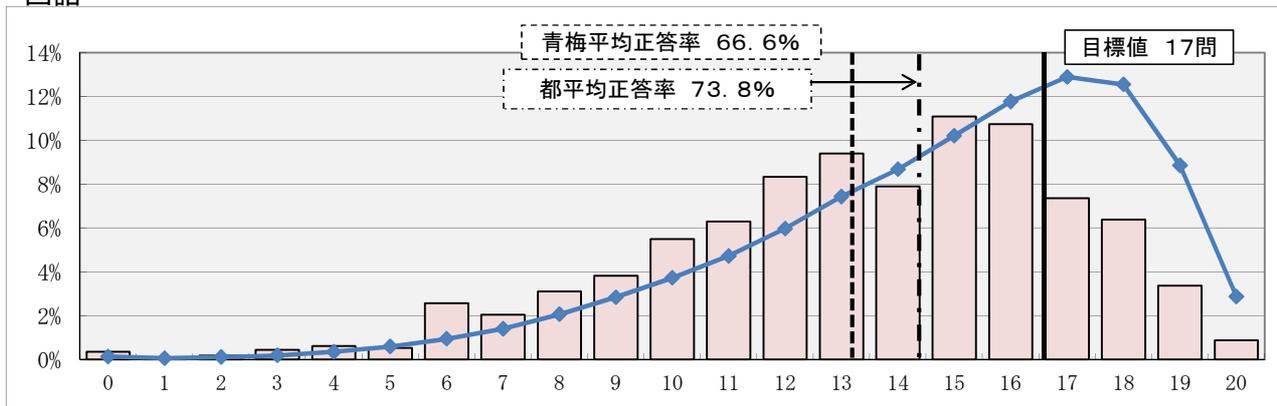
(分類) ○ 教科書例題レベルの問題 ● 教科書練習問題レベルの問題

※到達目標値は、○と●の合計数

青梅市の合計正答数の人数分布 (小学校 第5学年)

* 棒グラフが青梅市、折れ線グラフが東京都を示す。(縦軸：児童の割合(%)、横軸：正答数(問))
 ※目標値とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答問数である。

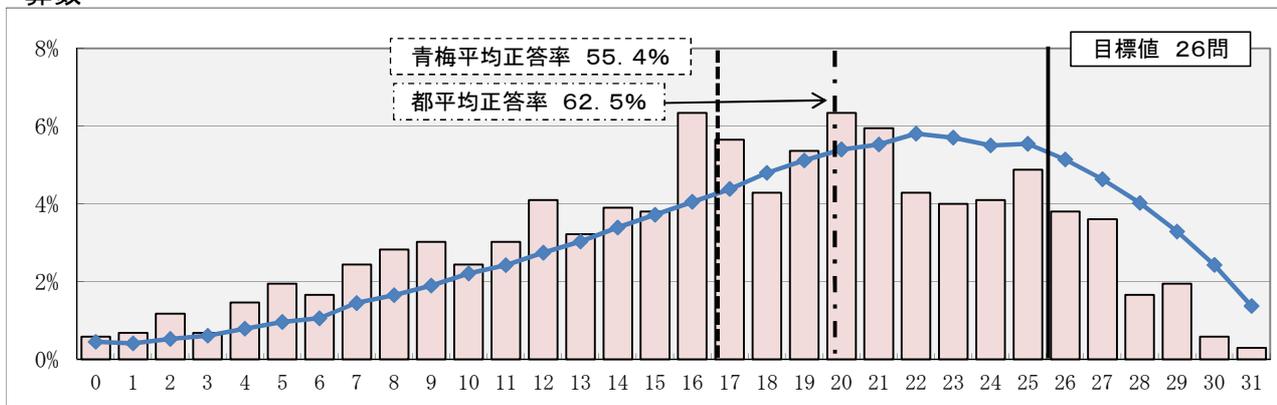
国語



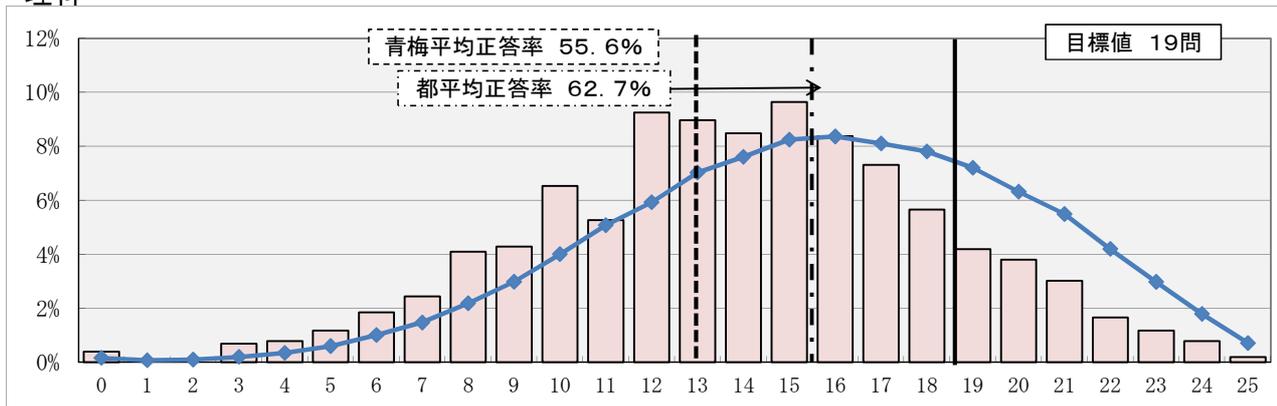
社会



算数



理科



第2章

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」 (中学校)

I 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の概要

1 調査実施の趣旨

東京都教育委員会では、平成15年度から、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の教科の目標や内容の実現状況を把握し、それを指導方法の充実・改善に結びつけることを目的に、教科別・観点別の学力定着状況調査を4年間実施した。平成18年度から平成20年度にかけては、「問題解決能力等の調査」を実施し、平成19年度から平成22年度にかけては、「基礎的・基本的な事項に関する調査」を実施した。

これまでの調査の結果から、東京都における生徒の学力の定着状況については、おおむね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握することや情報を整理して判断すること」について、課題があることが明らかになった。この課題を踏まえ、平成22年度には、「文章や図表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する」過程において、生徒がどの段階でどのような学習のつまずきがあるのかを明らかにするために、「読み解く力に関する調査」を実施した。平成23年度からは、中学校学習指導要領が先行実施されたことを踏まえ、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況と「読み解く力」の定着状況を把握するために、国語、社会、数学、理科、外国語〈英語〉の各教科について調査を実施している。

2 調査問題作成の基本方針

- (1) 調査問題を、年度ごとに比較する「経年比較型」、生徒のつまずきが、どこでどのように見られたのか分析できる「課題分析型」、よりよい授業展開の在り方を提案する「授業提案型」の3種類とする。
- (2) 学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの評価の観点(国語は5観点)から調査する。
- (3) 「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の3つの観点から調査する。

3 調査項目

| 教科 | 調査項目 |
|-------------|---|
| 国語 | ・話すこと・聞くこと(「聞くこと」については、音声を聞いて答える問題) ・漢字の読み(小学校「学年別漢字配当表」)・漢字の書き(小学校「学年別漢字配当表」) ・言葉に関する知識(文の成分の順序や照応) ・文学的な文章の読み・説明的な文章の読み・書くこと 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 社会 | [地理的分野]・世界の地域構成・世界各地の人々の生活と環境・世界の諸地域 ・世界の様々な地域の調査・日本の地域構成 [歴史的分野]・歴史のとらえ方・古代までの日本・中世の日本 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 数学 | ・正負の数・文字と式・一次方程式・比例と反比例・平面図形・空間図形 ・資料の活用・式の計算(第2学年) 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 理科 | [第1分野]・光と音の性質・力と圧力・期待の発生と性質・水溶液 [第2分野]・生物の観察・植物の体のつくりと働き・地層の重なりと過去の様子 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 |
| 外国語 (英語) | ・聞くこと(音声を聞いて答える問題)・読むこと・書くこと 【読み解く力】(1) 取り出す力 (2) 読み取る力 (3) 解決する力 ※時制は現在形・進行形・過去形(be動詞含む)まで |

※持ち物として、定規およびコンパスを用意する。

※各教科とも小学校および中学校第1学年に学習した内容を含む。

平成28年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(中学校)の結果について

1 調査結果の概要

| 教科 | 《教科の観点ごとの正答率》 | | | | 《教科の読み解く力ごとの正答率》 | | | | | | |
|-------------------|---------------------|--------|-------------|----|------------------|--------------------------|--------|-------------|----|-------|-------|
| | 内容 | 都全体 | 平均正答率グラフ(%) | | | 評価の観点 | 都全体 | 平均正答率グラフ(%) | | | |
| | | 青梅市 | 0 | 50 | 100 | | 差 | 0 | 50 | 100 | 差 |
| 国語 | 国語への関心・意欲・態度 | 96.2 % | 東京都 | | | 必要な情報を正確に取り出す力 | 65.8 % | | | | -10.5 |
| | | 95.1 % | 青梅市 | | | | 55.3 % | | | | |
| | 話す・聞く能力 | 82.4 % | | | | 比較・関連付けて読み取る力 | 61.4 % | | | | -5.5 |
| | | 77.3 % | | | | | 55.9 % | | | | |
| | 書く能力 | 66.2 % | | | | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 45.8 % | | | | -6.3 |
| | | 59.5 % | | | | | 39.5 % | | | | |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 67.9 % | | | | B 読み解く力に関する内容 | 59.7 % | | | | -8.2 |
| | | 60.9 % | | | | | 51.5 % | | | | |
| 読む能力 | 75.9 % | | | | 教科の合計(A+B) | 71.1 % | | | | -6.5 | |
| | 69.1 % | | | | | 64.6 % | | | | | |
| 社会 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 92.2 % | | | | 必要な情報を正確に取り出す力 | 55.2 % | | | | -11.2 |
| | | 90.1 % | | | | | 44.0 % | | | | |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 57.4 % | | | | 比較・関連付けて読み取る力 | 60.9 % | | | | -10.9 |
| | | 47.1 % | | | | | 50.0 % | | | | |
| | 資料活用の技能 | 60.7 % | | | | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 60.2 % | | | | -7.7 |
| | | 51.5 % | | | | | 52.5 % | | | | |
| 社会的事象についての知識・理解 | 47.1 % | | | | B 読み解く力に関する内容 | 58.8 % | | | | -10.0 | |
| | 40.5 % | | | | | 48.8 % | | | | | |
| A 教科の内容 | 57.5 % | | | | 教科の合計(A+B) | 57.8 % | | | | -8.2 | |
| 数学 | 数学への関心・意欲・態度 | 89.0 % | | | | 必要な情報を正確に取り出す力 | 38.2 % | | | | -11.7 |
| | | 86.9 % | | | | | 26.5 % | | | | |
| | 数学的な見方や考え方 | 39.9 % | | | | 比較・関連付けて読み取る力 | 45.1 % | | | | -5.3 |
| | | 28.9 % | | | | | 39.8 % | | | | |
| | 数学的な技能 | 62.8 % | | | | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 29.8 % | | | | -11.6 |
| | | 54.0 % | | | | | 18.2 % | | | | |
| 数量や図形などについての知識・理解 | 61.9 % | | | | B 読み解く力に関する内容 | 37.7 % | | | | -9.5 | |
| | 55.5 % | | | | | 28.2 % | | | | | |
| A 教科の内容 | 61.6 % | | | | 教科の合計(A+B) | 56.7 % | | | | -8.2 | |
| 理科 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 90.1 % | | | | 必要な情報を正確に取り出す力 | 64.8 % | | | | -12.4 |
| | | 86.0 % | | | | | 52.4 % | | | | |
| | 科学的な思考・表現 | 57.9 % | | | | 比較・関連付けて読み取る力 | 30.1 % | | | | -6.1 |
| | | 50.7 % | | | | | 24.0 % | | | | |
| | 観察・実験の技能 | 67.1 % | | | | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 44.4 % | | | | -9.8 |
| | | 61.8 % | | | | | 34.6 % | | | | |
| 自然事象についての知識・理解 | 50.7 % | | | | B 読み解く力に関する内容 | 46.4 % | | | | -9.4 | |
| | 44.9 % | | | | | 37.0 % | | | | | |
| A 教科の内容 | 57.8 % | | | | 教科の合計(A+B) | 55.2 % | | | | -7.0 | |
| 英語 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 81.9 % | | | | 必要な情報を正確に取り出す力 | 64.6 % | | | | -10.5 |
| | | 77.6 % | | | | | 54.1 % | | | | |
| | 外国語表現の能力 | 40.9 % | | | | 比較・関連付けて読み取る力 | 48.2 % | | | | -11.7 |
| | | 29.3 % | | | | | 36.5 % | | | | |
| | 外国語理解の能力 | 63.9 % | | | | 意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力 | 50.0 % | | | | -7.8 |
| | | 57.3 % | | | | | 42.2 % | | | | |
| 言語や文化についての知識・理解 | 46.8 % | | | | B 読み解く力に関する内容 | 54.3 % | | | | -10.0 | |
| | 40.2 % | | | | | 44.3 % | | | | | |
| A 教科の内容 | 56.0 % | | | | 教科の合計(A+B) | 55.6 % | | | | -8.0 | |
| | | 48.6 % | | | | | 47.6 % | | | | |

2 各教科の問題ごとの正答率一覧

(1) 国語（中学校第2学年対象）

| 問題番号 | 通し番号 | 学習指導要領の内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|-------|------|--------------|---|-------|---|---|--------|--------|-----------------------|-----------|-------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 1(1) | 1 | 1年 A話・聞エ | 話の内容を正確に捉えることができる。 | | ○ | | | 94.7 % | | -1.8 | ● | |
| | | | | | | | | 92.9 % | | | | |
| 1(2) | 2 | 1年 A話・聞エ | 話を聞き必要に応じて適切な質問をすることができる。 | | ○ | | | 81.6 % | | -7.7 | ● | |
| | | | | | | | | 73.9 % | | | | |
| 1(3) | 3 | 1年 A話・聞エ | 二つのスピーチを聞いて内容を理解するとともに、観点を明確にして比較することができる。 | | ○ | | | 80.0 % | | -5.4 | ● | |
| | | | | | | | | 74.6 % | | | | |
| 1(4) | 4 | 1年 A話・聞イ | 話し方や伝え方の工夫を捉えることができる。 | | ○ | | | 73.5 % | | -5.5 | ● | |
| | | | | | | | | 68.0 % | | | | |
| 1(5) | 5 | 1年 A話・聞 | 国語への関心・意欲・態度をみる問題。 | | ○ | | | 96.2 % | | -1.1 | ● | |
| | | | | | | | | 95.1 % | | | | |
| 2(1) | 6 | 1年 伝統(1)ウ | 小学6年生までの学習漢字について、正しく読むことができる。 | | | | | 87.4 % | | -0.3 | ○ | |
| 2(2) | 7 | 1年 伝統(1)ウ | | | | | | 30.7 % | | | | |
| 2(3) | 8 | 1年 伝統(1)ウ | | | | | | 47.1 % | | -9.4 | ○ | |
| | | | | | | | 37.7 % | | | | | |
| 3(1) | 9 | 1年 伝統(1)ウ | 小学6年生までの学習漢字について、正しく書くことができる。 | | | | | 60.0 % | | -12.6 | ○ | |
| 3(2) | 10 | 1年 伝統(1)ウ | | | | | | 87.0 % | | | | |
| 3(3) | 11 | 1年 伝統(1)ウ | | | | | | 55.4 % | | -14.5 | ○ | |
| | | | | | | | 40.9 % | | | | | |
| 4(1) | 12 | 1年 伝統(1)イ | 語句の係り受けについて理解し、適切に文を書くことができる。 | | | | | 75.3 % | | -10.4 | ○ | |
| 4(2) | 13 | 1年 伝統(1)イ | 熟語の意味や組み立てを理解し、文の中で正しく使うことができる。 | | | | | 89.3 % | | | | |
| 4(3) | 14 | 1年 伝統(1)イ | | | | | | 84.7 % | | -2.5 | ○ | |
| | | | | | | | | 79.3 % | | | | |
| | | | | | | | | 76.8 % | | | | |
| 5(1) | 15 | 1年 C読工 | 表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取ることができる。 | | | | | 64.2 % | | -7.0 | ● | |
| 5(2) | 16 | 1年 C読ウ | ある場面での登場人物の行動の理由を読み取ることができる。 | | | | | 74.0 % | | | | |
| 5(3) | 17 | 1年 C読ウ | ある場面での登場人物の様子を読み取ることができる。 | | | | | 67.5 % | | -8.7 | ● | |
| 5(4) | 18 | 1年 C読ウ | ある場面での登場人物の気持ちを読み取ることができる。 | | | | | 80.7 % | | | | |
| | | | | | | | | 72.0 % | | | | |
| | | | | | | | | 84.9 % | | -5.1 | | |
| | | | | | | | | 79.8 % | | | | |
| 6(1)① | 19 | 1年 C読イ | 文章の中心となる内容について理解するために必要な情報を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | | 70.6 % | | -9.7 | ● |
| 6(1)② | 20 | 1年 C読イ | 文章の中心となる内容について理解するために必要な情報を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | | 60.9 % | | | |
| 6(2) | 21 | 1年 C読イ | 文章の中心となる内容について理解するために、情報を比較・関連付けて読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | | 61.0 % | | -11.2 | ● |
| 6(3) | 22 | 1年 C読オ | 読み取った情報をもとに、理解・解釈・推論し、文章の中心となる内容について考えをまとめることができる。 | 解決する力 | | | | | 49.8 % | | | |
| | | | | | | | | 61.4 % | | -5.5 | | |
| | | | | | | | | 55.9 % | | | | |
| | | | | | | | | 45.8 % | | -6.3 | | |
| | | | | | | | | 39.5 % | | | | |
| 7(1) | 23 | 1年 B書オ | 書いた文章を互いに読み合い、描写の工夫などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げることができる。 | | | | | 66.1 % | | -9.3 | | |
| 7(2) | 24 | 1年 B書工 | 事柄や心情が効果的に伝わるように、描写を工夫して書くことができる。 | | | | | 56.8 % | | | | |
| 7(3) | 25 | 1年 B書 | 国語への関心・意欲・態度をみる問題。 | | | | | 38.6 % | | -8.2 | | |
| | | | | | | | | 30.4 % | | | | |
| | | | | | | | | 93.8 % | | -2.7 | | |
| | | | | | | | | 91.1 % | | | | |

評価の観点 ①国語への関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④読む能力

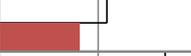
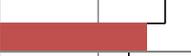
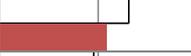
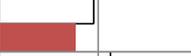
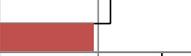
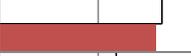
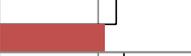
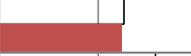
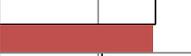
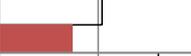
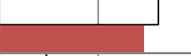
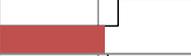
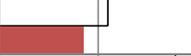
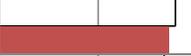
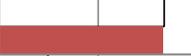
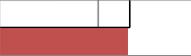
(分類) ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 到達目標値は○と●の合計数である

(2) 社会 (中学校第2学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|-------|------|---------------|--|-------|---|---|------------------|-----------------------|-----------|---|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 地理 (2)アイ | 日本の気候の特色を理解している。 | | | ○ | 73.6 % 66.5 % | | -7.1 | ○ | |
| 1(2) | 2 | | 日本の気候の特色と雨温図とを関連付けることができる。 | | | ○ | 65.6 % 51.2 % | | -14.4 | ● | |
| 1(3) | 3 | | 日本の気候の特色の理由を正しく説明することができる。 | | ○ | | 47.2 % 39.5 % | | -7.7 | | |
| 1(4) | 4 | | 日本の都道府県庁所在地名を理解している。 | | | ○ | 71.4 % 66.4 % | | -5.0 | ● | |
| 2(1) | 5 | 地理 (1)アイ | 大陸と海洋の分布を理解している。 | | | ○ | 55.6 % 41.6 % | | -14.0 | ○ | |
| 2(2) | 6 | | 緯度と経度を用いて、地球上の位置を捉えることができる。 | | | ○ | 52.0 % 47.2 % | | -4.8 | ● | |
| 2(3)① | 7 | | 人々の生活の様子を自然と関連付けて捉えることができる。 | | ○ | | 70.7 % 56.0 % | | -14.7 | ● | |
| 2(3)② | 8 | | 世界各地の人々の生活と環境を意欲的に探究しようとしている。 | ○ | | | 91.9 % 89.8 % | | -2.1 | ● | |
| 3(1) | 9 | 地理 (1)ウ(イ) | ヨーロッパ州の地域的特色を大観できている。 | | | ○ | 42.6 % 37.3 % | | -5.3 | ○ | |
| 3(2) | 10 | | ヨーロッパ州の地域的特色を理解している。 | | | ○ | 26.6 % 24.1 % | | -2.5 | ● | |
| 3(3) | 11 | | ヨーロッパ州の地域的特色を理解している。 | | | ○ | 37.8 % 27.8 % | | -10.0 | ● | |
| 3(4) | 12 | | ヨーロッパ州を資料から捉え、説明することができる。 | | | ○ | 56.1 % 45.2 % | | -10.9 | ● | |
| 4(1) | 13 | 歴史(2) | 古代までの歴史の流れを理解している。 | | | ○ | 55.8 % 48.1 % | | -7.7 | ● | |
| 4(2) | 14 | | 古代までの政治の特色を理解している。 | | | ○ | 40.7 % 30.9 % | | -9.8 | ● | |
| 4(3) | 15 | | 古代までの日本の外交を理解している。 | | | ○ | 56.7 % 52.6 % | | -4.1 | ● | |
| 4(4) | 16 | | 古代までの日本の特色について、理解している。 | | ○ | | 52.3 % 42.6 % | | -9.7 | | |
| 5(1) | 17 | 歴史 (3) | 中世の歴史の流れを理解している。 | | | ○ | 56.6 % 51.6 % | | -5.0 | ○ | |
| 5(2) | 18 | | 鎌倉幕府の特色を理解している。 | | | ○ | 56.0 % 46.5 % | | -9.5 | ● | |
| 5(3) | 19 | | 資料を基に、鎌倉幕府の政治的特色を捉えている。 | | | ○ | 62.7 % 56.9 % | | -5.8 | ● | |
| 6(1) | 20 | 歴史 (2)(3) | 古代から中世の文化の特色を捉えている。 | | | ○ | 63.5 % 50.1 % | | -13.4 | ● | |
| 6(2) | 21 | | 古代から中世における文化の変化について、複数の資料を関連付け、まとめることができる。 | | | ○ | 35.9 % 31.8 % | | -4.1 | ○ | |
| 6(3) | 22 | | 古代から中世の文化の背景を考察することができる。 | | ○ | | 59.5 % 50.3 % | | -9.2 | | |
| 6(4) | 23 | | 中世以降の文化の特色を意欲的に探究しようとしている。 | ○ | | | 92.4 % 90.4 % | | -2.0 | ● | |
| 7(1) | 24 | 地理 (2)ウ | 1975年の長崎県大村市の工業の様子を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | 62.6 % 51.3 % | | -11.3 | ○ | |
| 7(2) | 25 | | 1975年と2009年の長崎県大村市の工業の変化をまとめることができる。 | 読み取る力 | | | 59.9 % 49.0 % | | -10.9 | ● | |
| 7(3) | 26 | | 長崎県大村市における工場の分布とその背景を推論することができる。 | 解決する力 | | | 69.2 % 60.9 % | | -8.3 | | |
| 8(1) | 27 | 歴史 (4) | 江戸時代の江戸周辺の上水の様子などを正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | 47.8 % 36.8 % | | -11.0 | ○ | |
| 8(2) | 28 | | 江戸時代の江戸周辺の上水の発達をまとめることができる。 | 読み取る力 | | | 61.9 % 50.9 % | | -11.0 | ● | |
| 8(3) | 29 | | 江戸時代の江戸周辺の上水がつくられた理由を推論することができる。 | 解決する力 | | | 51.2 % 44.0 % | | -7.2 | | |

評価の観点 ①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③資料活用の技能
④社会的事象についての知識・理解
(分類) ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 目標達成値は ○と●の合計数

(3) 数学 (中学校第2学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体) (青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|-------|------|-----------|--|---------------------------|---|---|-------|-----------------------|---|---|-------|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1)① | 1 | 小4A(5)ウ | 割合を求めることができる。 | | | ○ | | 81.6 % 73.6 % |  | -8.0 | ○ |
| 1(1)② | 2 | | 割合を求めることができる。 | | | ○ | | 80.7 % 71.8 % |  | -8.9 | ○ |
| 1(2) | 3 | 小6D(1) | 比を使って含まれるエネルギーを求めることができる。 | | | ○ | | 54.5 % 40.4 % |  | -14.1 | ○ |
| 2(1) | 4 | 1年A(1)ウ | 分数の減法ができる。 | | | ○ | | 83.8 % 74.7 % |  | -9.1 | ○ |
| 2(2) | 5 | | 負の数を含む乗除の計算ができる。 | | | ○ | | 65.5 % 54.1 % |  | -11.4 | ○ |
| 2(3) | 6 | 1年A(1)イ | 負の数に(-1)をかけた計算結果について理解している。 | | | ○ | | 47.8 % 38.6 % |  | -9.2 | ● |
| 2(4) | 7 | 1年A(1)エ | 正負の数が日常生活に利用できることを理解している。 | | | ○ | | 56.3 % 47.3 % |  | -9 | ● |
| 3(1)① | 8 | 1年A(2)イ | 式の値を求めることができる。 | | | ○ | | 82.3 % 79.2 % |  | -3.1 | ○ |
| 3(1)② | 9 | | 式の値を求めることができる。 | | | ○ | | 59.1 % 53.3 % |  | -5.8 | ● |
| 3(2) | 10 | 1年A(2)ウ | 分配法則を用いて文字式の計算ができる。 | | | ○ | | 63.1 % 61.9 % |  | -1.2 | ○ |
| 3(3) | 11 | 1年A(3)エ | 一次方程式を解くことができる。 | | | ○ | | 79.0 % 77.4 % |  | -1.6 | ○ |
| 3(4) | 12 | 2年A(1)ウ | 等式の変形ができる。 | | | ○ | | 52.0 % 36.8 % |  | -15.2 | ● |
| 4(1) | 13 | 1年A(2)エ | 問題文をもとに、6番目の図形に使われるタイルの枚数が分かる。 | | | ○ | | 80.4 % 73.1 % |  | -7.3 | ○ |
| 4(2) | 14 | | n番目の図形に使われるタイルの枚数を、nを使った式で表わすことができる。 | | ○ | | | 23.9 % 12.3 % |  | -11.6 | ● |
| 4(3) | 15 | | 文字を使って表すことに意欲的に取り組むことができる。 | ○ | | | | 88.9 % 87.8 % |  | -1.1 | |
| 5(1) | 16 | | 1年A(3)ウ | 問題文を理解し、条件を満たす式を作ることができる。 | | | ○ | | 25.1 % 14.3 % |  | -10.8 |
| 5(2) | 17 | 1年A(3)ア | (1)とは違う数量を文字で表したとき、1次方程式の両辺が表しているものが分かる。 | | | ○ | | 36.1 % 25.0 % |  | -11.1 | ● |
| 6(1) | 18 | 1年B(1)イ | 回転移動について理解している。 | | | ○ | | 60.1 % 53.4 % |  | -6.7 | ● |
| 6(2) | 19 | | 直線lを対象の軸とし、点Aと線対称の位置にある点Bの作図を考えることができる。 | | ○ | | | 55.0 % 42.3 % |  | -12.7 | ● |
| 6(3) | 20 | | 図形の作図に意欲的に取り組もうとしている。 | ○ | | | | 89.1 % 85.9 % |  | -3.2 | ● |
| 7(1) | 21 | | 1年B(2)ア | ねじれの位置にある辺について分かる。 | | | ○ | | 83.4 % 82.7 % |  | -0.7 |
| 7(2) | 22 | 1年B(2)ウ | 三角錐の体積を求めることができる。 | | | ○ | | 24.7 % 15.3 % |  | -9.4 | ● |
| 7(3) | 23 | 1年B(1)イ | 底面が決まったときの高さとなる辺を捉えることができる。 | | ○ | | | 44.6 % 36.0 % |  | -8.6 | |
| 8(1) | 24 | 1年C(1)エ | グラフからさとるくとあきこさんが1分間に進む速さについて読み取ることができる。 | | | | 取り出す力 | 37.3 % 22.5 % |  | -14.8 | ○ |
| 8(2) | 25 | 1年C(1)オ | 8分後の2人の間の距離を求めることができる。 | | | | 読み取る力 | 24.3 % 14.7 % |  | -9.6 | ● |
| 8(3) | 26 | 1年C(1)ア | 図書館を出てx分後のさとるくとあきこさんの間の距離について、式を使って表すことができる。 | | | | 解決する力 | 14.5 % 5.8 % |  | -8.7 | |
| 9(1) | 27 | 1年D(1)ア | 2つのヒストグラムから施行した合計回数を取り出すことができる。 | | | | 取り出す力 | 39.1 % 30.5 % |  | -8.6 | ○ |
| 9(2) | 28 | | 2つの投げ方の方法について、それぞれの中央値を用いて、比較することができる。 | | | | 読み取る力 | 65.9 % 64.9 % |  | -1.0 | ● |
| 9(3) | 29 | 1年D(1)イ | 2つのヒストグラムから分かる特徴をもとに、良いと思う方法を選び、その理由を説明することができる。 | | | | 解決する力 | 45.1 % 30.5 % |  | -14.6 | |

評価の観点 ①数学への関心・意欲・態度 ②数学的な見方や考え方 ③数学的な技能

④数量・図形などについての知識・理解

分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習レベルの問題 ※到達目標値は○と●の合計数

(4) 理科 (中学校第2学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率 (都全体 青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|------|------|----------------|---|-------|---|---|---|---------------------|------------|-------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 2分野 (1)イ(ア) | 被子植物の花の部分の名称を理解している。 | | | | ○ | 40.3 % 30.9 % | 東京都 青梅市 | -9.4 | ○ |
| 1(2) | 2 | | マツの雄花と雌花を理解している。 | | | | ○ | 47.8 % 44.8 % | | -3.0 | ○ |
| 1(3) | 3 | 2分野 (1)ウ(ア) | 被子植物と裸子植物の受粉した後の様子について理解している。 | | | | ○ | 52.7 % 42.9 % | | -9.8 | ● |
| 2(1) | 4 | 2分野 (2)ア(ア) | 顕微鏡を正しく使うことができる。 | | | | ○ | 58.2 % 49.6 % | | -8.6 | ○ |
| 2(2) | 5 | 2分野 (1)イ(イ) | 気孔が葉の裏側に多く分布していることを示す実験結果を捉えることができる。 | | ○ | | | 39.1 % 31.3 % | | -7.8 | |
| 2(3) | 6 | | 植物のからだのつくりとはたらきについて、関心をもって調べようとしている。 | ○ | | | | 88.2 % 83.9 % | | -4.3 | ● |
| 3(1) | 7 | 1分野 (2)イ(ア) | 二酸化炭素に石灰水を白濁させる性質があることを理解している。 | | | | ○ | 89.4 % 82.6 % | | -6.8 | ○ |
| 3(2) | 8 | 1分野 (2)ア(イ) | 二酸化炭素の製法を理解している。 | | | | ○ | 46.8 % 43.2 % | | -3.6 | ● |
| 3(3) | 9 | 1分野 (2)ア(イ) | 酸素の製法と性質を基にし、酸素であることを適切な確認方法を考えることができる。 | | ○ | | | 70.8 % 61.6 % | | -9.2 | |
| 4(1) | 10 | 1分野 (2)ア(ア) | メスシリンダーの目盛を正しく読み取ることができる。 | | | | ○ | 76.0 % 74.1 % | | -1.9 | ○ |
| 4(2) | 11 | 1分野 (2)イ(イ) | 質量パーセント濃度の求め方を理解している。 | | | | ○ | 25.7 % 17.6 % | | -8.1 | ● |
| 4(3) | 12 | | グラフから、溶質を最も多く溶かすことができる液体を捉えることができる。 | | ○ | | | 53.4 % 42.5 % | | -10.9 | |
| 5(1) | 13 | 2分野 (2)イ(ア) | 地層ができる過程は、地層が堆積した当時の環境が、温暖な海であることを示すこと、サンゴの化石は示相化石であることを理解している。 | | | | ○ | 59.9 % 57.8 % | | -2.1 | ● |
| 5(2) | 14 | | 地層が堆積する間に起きたことを図から読み取り、推測することができる。 | | ○ | | | 27.1 % 22.9 % | | -4.2 | ● |
| 6(1) | 15 | 1分野 (1)イ(ア) | 物体がスポンジを押す力について理解している。 | | | | ○ | 42.8 % 36.4 % | | -6.4 | ● |
| 6(2) | 16 | 2分野 (2)イ(イ) | 圧力の大きさと、物体に対する働きを正しく理解し、スポンジのへこみ方を関連付けて考えることができる。 | | ○ | | | 75.3 % 70.2 % | | -5.1 | ● |
| 6(3) | 17 | | 圧力について関心をもち、さらに探究的な活動をしようとしている。 | ○ | | | | 92.0 % 88.1 % | | -3.9 | ● |
| 7(1) | 18 | 1分野 (1)ア(ウ) | 弦を強くはじいた時のオシロスコープに現れる波形について理解している。 | | | | ○ | 66.8 % 61.5 % | | -5.3 | ○ |
| 7(2) | 19 | | 弦を弱くはじいた時の、オシロスコープに現れる波形について考え、適切な波形を捉えることができる。 | | ○ | | | 50.1 % 45.5 % | | -4.6 | ● |
| 7(3) | 20 | | 実験の時より低くて大きい音を発生させる適切な方法を考えることができる。 | | ○ | | | 54.4 % 45.0 % | | -9.4 | |
| 8(1) | 21 | 1分野 (2)ア | グラフから立方体Aの質量と体積を読み取ることができる。 | 取り出す力 | | | | 59.9 % 45.4 % | | -14.5 | ○ |
| 8(2) | 22 | | グラフから物体の体積と質量の関係を読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | 43.2 % 36.0 % | | -7.2 | ● |
| 8(3) | 23 | | それぞれの物体における、同体積における質量の関係について、グラフで表される数値と関連付けて考えることができる。 | 解決する力 | | | | 36.9 % 26.7 % | | -10.2 | |
| 9(1) | 24 | 1分野 (1)ア(イ) | 結果の表から凸レンズとスクリーンの距離と、像の大きさを正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | 69.7 % 59.5 % | | -10.2 | ○ |
| 9(2) | 25 | | 焦点距離の2倍の位置に物体が置かれた時の凸レンズとスクリーンの距離と像の大きさを読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | 17.0 % 11.9 % | | -5.1 | ● |
| 9(3) | 26 | | 結果の表から、「凸レンズと物体の距離」、「凸レンズとスクリーンの距離」、「像の大きさの関係」を推論することができる。 | 解決する力 | | | | 52.0 % 42.5 % | | -9.5 | |

評価の観点 ①自然現象への関心・意欲・態度 ②科学的な思考・表現 ③観察・実験の技能

④自然現象についての知識・理解

分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 ※到達目標値は○と●の合計数

(5) 外国語(英語) (中学校第2学年対象)

| 問題番号 | 通し番号 | 要領の学習指導内容 | 出題のねらい | 評価の観点 | | | | 正答率(都全体)(青梅市) | 正答率グラフ(%) | 差 | 分類 |
|-------|------|--|---|-------|---|--------|--------|---------------|------------|-------|----|
| | | | | ① | ② | ③ | ④ | | | | |
| 1(1) | 1 | 聞くことウ | 相手からの質問(疑問詞のある疑問文)に対して適切な応答ができる。 | | | ○ | | 65.6 % | 東京都 青梅市 | -7.4 | ○ |
| | | | | | | | 58.2 % | | | | |
| 1(2) | 2 | | 相手の発言に適切な応答ができる。 | | | ○ | | 34.7 % | | -7.5 | ● |
| | | | | | | 27.2 % | | | | | |
| 1(3) | 3 | 相手の質問に適切な応答ができる。 | | | ○ | | 59.3 % | | -5.6 | ● | |
| | | | | | | 53.7 % | | | | | |
| 2(1) | 4 | 聞くことオ | 会話を聞いて会話の背景にある情報を聞き取ることができる。 | | | ○ | | 75.6 % | | -8.4 | ● |
| | | | | | | | 67.2 % | | | | |
| 2(2) | 5 | | 電話でのやり取りを聞いて詳細を理解することができる。 | | | ○ | | 19.9 % | | -6.5 | ● |
| | | | | | | 13.4 % | | | | | |
| 2(3) | 6 | スピーチを聞いて詳細を理解することができる。 | | | ○ | | 89.4 % | | -3.6 | ○ | |
| | | | | | | 85.8 % | | | | | |
| 3 | 7 | 読むこと | 電子メールの文章から書き手の意向を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。 | ○ | | | | 29.7 % | | -13.7 | ○ |
| | | | | | | 16.0 % | | | | | |
| 4 | 8 | 書くこと | 地域の紹介をする際に使う表現を正確な英文で書くことができる。 | | ○ | | | 22.1 % | | -3.9 | |
| | | | | | | 18.2 % | | | | | |
| 5(1) | 9 | 読むこと | 位置を表す前置詞の使い方を理解している。 | | | ○ | | 22.1 % | | -3.9 | ● |
| | | | | | | | | 18.2 % | | | |
| 5(2) | 10 | | | | | | ○ | 63.1 % | | | |
| | | | | | | 60.2 % | | | | | |
| 6(1) | 11 | 書くこと | 会話の状況を理解し、時制に合う動詞を適切に使うことができる。 | | ○ | | | 75.7 % | | -15.3 | ○ |
| | | | | | | | | 60.4 % | | | |
| 6(2) | 12 | | | | | ○ | | 27.6 % | | | |
| | | | | | | 25.2 % | | | | | |
| 7(1) | 13 | 読むことウ | 手紙を読んで英文の中にある代名詞(it)が表しているものを理解することができる。 | | | ○ | | 85.7 % | | -6.3 | ● |
| | | | | | | 79.4 % | | | | | |
| 7(2) | 14 | 読むことエ | 手紙の文章から、書き手の意向を理解することができる。 | | | ○ | | 81.2 % | | -7.2 | ● |
| | | | | | | 74.0 % | | | | | |
| 8(1) | 15 | 書くことイ | what + 名詞で始まる疑問文の語順を理解している。 | | | ○ | | 36.0 % | | -6.5 | ● |
| | | | | | | | 29.5 % | | | | |
| 8(2) | 16 | | 代名詞(所有格) + 形容詞 + 名詞の文の語順を理解している。 | | | ○ | | 68.2 % | | -9.9 | ● |
| | | | | | | | 58.3 % | | | | |
| 8(3) | 17 | | 代名詞(目的格)を使った3人称・単数・現在の否定文の語順を理解している。 | | | ○ | | 63.1 % | | -7.5 | ● |
| | | | | | | 55.6 % | | | | | |
| 8(4) | 18 | whatから始まる疑問文の中で副詞の入る位置を理解している。 | | | ○ | | 28.3 % | | -8.8 | ● | |
| | | | | | | 19.5 % | | | | | |
| 9 | 19 | 書くこと | 他者の紹介をする際に使う表現を正確な英文で書くことができる。 | | ○ | | | 30.4 % | | -14.6 | |
| | | | | | | 15.8 % | | | | | |
| 10 | 20 | 読むこと | 理解できないところがあっても、推測しながら最後まで読み続けようとしている。 | ○ | | | | 71.4 % | | -7.9 | ○ |
| | | | | | | 63.5 % | | | | | |
| 11(1) | 21 | 読むこと | インタビューから、必要な情報を正確に取り出すことができる。 | 取り出す力 | | | | 74.2 % | | -10.0 | ● |
| | | | | | | | | | | | |
| 11(2) | 22 | | 会話の内容を表と関連させて読み取ることができる。 | 読み取る力 | | | | 49.6 % | | -12.9 | |
| | | | | | | | 36.7 % | | | | |
| 11(3) | 23 | 得られた情報や自分の考えを基に、プレゼンテーションのまとめに当たるセリフを選ぶことができる。 | 解決する力 | | | | 56.1 % | | -6.5 | | |
| | | | | | | | 49.6 % | | | | |
| 12(1) | 24 | 読むこと | 伝統芸能体験講座への参加を考えている4人の会話から、日本舞踊を選ぼうとしている人物を選ぶことができる。 | 取り出す力 | | | | 55.0 % | | -11.1 | ● |
| | | | | | | | | 43.9 % | | | |
| 12(2) | 25 | | 会話の内容をチラシと関連させて読み、登場人物の1人が参加可能な全ての講座を選ぶことができる。 | 読み取る力 | | | | 46.8 % | | -10.5 | |
| | | | | | | | | 36.3 % | | | |
| 12(3) | 26 | | チラシや会話の内容を踏まえ、登場人物2人が選ぼうとしている講座を選ぶことができる。 | 解決する力 | | | | 43.9 % | | -9.0 | |
| | | | | | | | 34.9 % | | | | |

評価の観点 ①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語表現の能力 ③外国語理解の能力

④言語や文化についての知識・理解

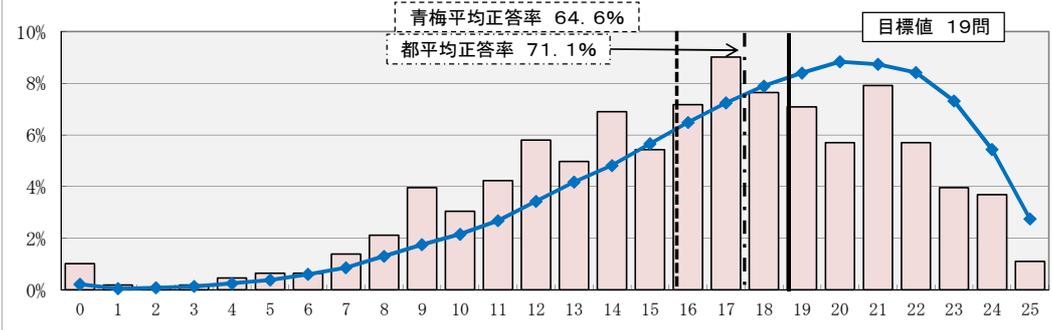
分類 ○教科書例題レベルの問題 ●教科書練習問題レベルの問題 到達目標値は○と●の合計数

青梅市の合計正答数の人数分布 (中学校 第2学年)

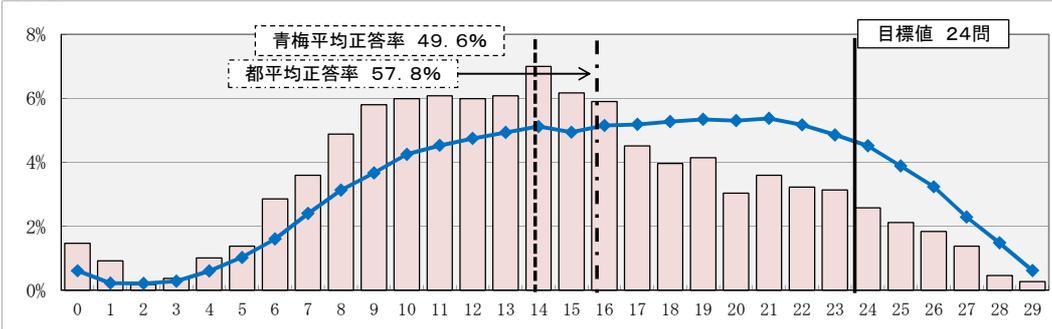
*棒グラフが青梅市、折れ線グラフが東京都を示す。(縦軸：生徒の割合(%)、横軸：正答数(問))

※目標値とは、学習指導要領の内容について標準的に学習活動が行われたと想定した場合の、正答問数である。

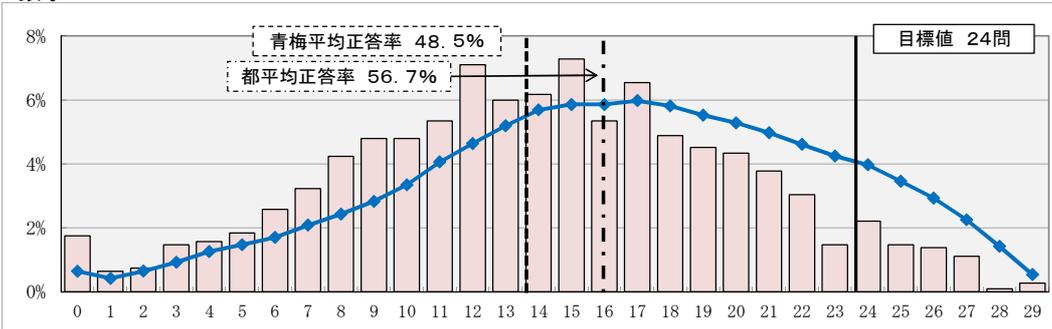
国語



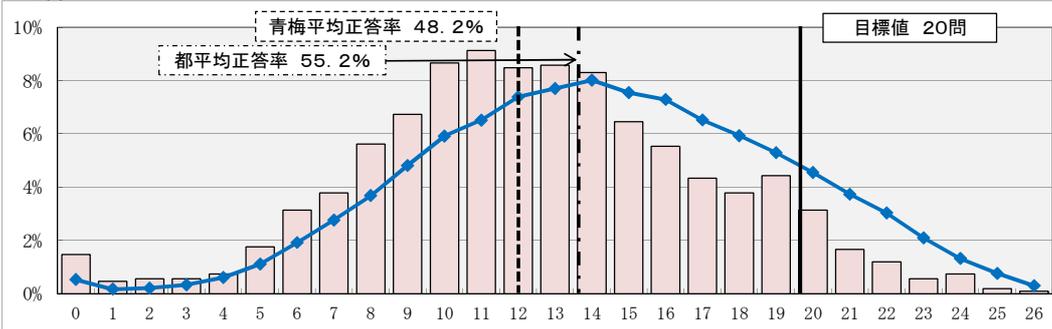
社会



数学



理科



英語

